（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十七年九月十三日（水曜日）　臺灣日日新報　夕刊

臺灣日日新報

國民的決意を戰場へ

大東亞戰爭完遂決議

劃期的成果、總常會閉幕

米英的思想を撲滅

奥村情報局次長強調

思想戰強化

轉廢業者の南方送出

佐藤軍務局長率直に表明

戰時食糧增産（第四委員會）

戰時生活事項（第五委員會）

民族力の增強（第六委員會）

米英海軍の損失艦艇

五十九隻、米當局確認

駐日滿國大使後任

王允卿氏正式發令

ス市の陷落迫る

餘すは北部地區のみ

米價引上げず

農林次官言明

獨總統、伊首相より祝電

東條首相に

總力戰だ　健康戰だ
體力の確保に
毎日缺かさず
ハリバを
國民總力結集の秋こそ、不屈の體力を確保して、能率の昂揚を計り得るよう……
激務家や病弱な方は……毎日缺かさずハリバを進用して食物中に不足がちなビタミンAとDを補ひませう。

補血強壯　肝臟製劑
精肝ネオ
合亞汁液牛・除肝臟（劑型許可）
症候病腺
炎膜肋核結肺
兒弱虛血貧
碍障腸胃性慢
婦褥産妊
等弱衰後病

滿人油
つた轉んだ不意の
怪我過ちにキヽメの
早い萬人油の御常備
で一家はいつも健康
アーヽス
井上幹藏
株式會社　木村製藥所
主治奏効
頭痛　咽喉加答兒　腰痛　神經痛　關節炎　打撲　疲勞　衰弱　症候　諸病　診斷　藥物　處方　病院　火傷　凍傷　皮膚病　歯痛　淋病　梅毒　花柳病　婦人病　小兒病　神經衰弱　胃腸病　肺病　結核　癌　腫瘍　膀胱　腎臟　尿道　生殖器　眼病　耳病　鼻病　喉頭病　神經痛　リウマチ　痔疾　脚氣　中風　麻痺　不眠症　健忘症

軍人援護へ驀らう

四日島都で皇軍武運長久祈願祭執行
臺灣神社始め各神社で

軍人援護に功勞顯著
隣組と銃後奉公會を表彰

軍國の妻を接見、激勵
角板山觀察の長谷川總督けふ下山

軍人援護強化運動展開
花蓮港廳の實施事項決る

男女作家を總動員
軍事援護强化へ協力

結核の豫防、撲滅對策
厚生省各局長　具體的諸施策の概要を明示

急潮潜る世紀の處女列車
靖國神社　晴れの招魂式へ
臺灣關係新祭神遺族近く上京

學制改革は當然
臺灣の實情に即應
梅谷督府學務課長語る

溜り水を整理せよ
市民に撲滅の協力を要望

關門海底隧道
奉修令違反で摘發

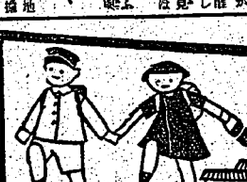
遺難の中華航空九龍號
靜岡縣下で發見

輝かしき歷史を遺し
臺北州支部解散式擧行

學校教練振作打合會
獨身警察官に結婚斡旋
新竹州警察部の親ごころ

二國志
吉川英治作　矢野橋村畫

マスコットのミー公猫とたはむれる海鷲勇士達　支那沿面艦隊報道部提供——海軍省海軍報道部検閲済（七二）號



臺灣日日新報 第一万五千二百九十一號 昭和十七年九月三十日（水曜日） （可認物便郵報第三種第九月九日第二種郵便物認可） 大正十一年五月五日創刊 （一）

一億國民の總常會終る

改革は絶大努力要す

建設意見機を逸せず實現

東條首相挨拶

【東京發同盟】第八十二回帝國議會は廿九日午後二時より貴族院本會議場に開會、勅語奉讀の後、東條首相より左の如き施政方針演説があつた

今次大東亞戰爭は開戰以來既に滿三年半を經過し、この間我が陸海軍將兵の勇戰奮闘は赫々たる戰果を擧げ、皇軍の威武は四海に宣揚せられ、大東亞戰爭の目的は着々として達成されつゝあるのであります、しかしながら戰局は愈々重大化し、我が國の總力を擧げて戰ひ抜くべき時局に當面して居ることは、我々の深く覺悟するところであります、この時局を克服して大東亞戰爭の目的を完遂し、以て皇國の興隆を期するためには、我が國の政治體制を一層强化し、國家總力の發揮を一層有效ならしめることが絶對に必要であります、政府は既に翼賛政治體制の確立に關する詔勅の御趣旨に則り、翼賛政治體制の强化に關する具體的方策を樹立し、これが實現に邁進する決意であります、

【東京發同盟】二十九日の臨時閣議において、東條首相は左の如き施政方針を決定し、同日の臨時議會の施政方針演説に際し、これを明かにした

挨拶

本年五月十五日の臨時閣議において大政翼賛會の改組と共に各國の國民組織並にその運動等を翼賛會の傘下に統轄せしめられ、それと同時にこの中央協力會議についても一層その本來の機能を發揮せしめ以て大政翼賛會運動の指導的推進力に大いに資與せしめんがために左記十項目なる措置を講ぜられたる次第であつて今回の第二回中央協力會議開催に當りては右の如き經過と期待の下に百數十名をもつて茲に二十六日より開催せられたる次第であります、然るに議會議員の諸君が夙に國政の各般の問題と御協力とによつて前後三回に亘る國會の召集に際し熱誠溢るるばかりの御鞭撻と御援助とを賜はつたことは我が國の一大幸福であり、且つ今次の大東亞戰爭の完遂上絶對に必要缺くべからざるものであります、

一、翼賛會と翼賛政治會との關係については、翼賛會は翼賛政治會の指導機關たるの實を擧げ、翼賛政治會は翼賛會の推進力たるの實を擧げ、兩者相俟つて翼賛政治體制の確立に邁進すること

社說

米の反攻戰備とその對策

悠然たる樂觀氣分を說む

一

日本國民はんと稱された世界的國民力に對する認識を變更するといふまでもない。嘗ての國民の國民を變更するといふまでもない。嘗ての國民の國民を變更するといふまでもない。嘗ての國民の國民を變更するといふまでもない。

臺灣糖業南方進出

各社派遣團爪哇へ出發

▲大日本製糖（第一班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲明治製糖（第二班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲臺東製糖（第三班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲臺南製糖（第四班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲臺中製糖（第五班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲臺北製糖（第六班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲新興製糖（第七班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲帝國製糖（第八班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲鹽水港製糖（第九班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

▲大日本製糖（第十班長內名孝一郎）＝十二名、計十一名、班長所用自動車二台、其他一台、計三台

ビルマ糖業の經營

軍から鹽糖が指名さる

地方行政機構改革

協力會議第二委員會で

大陸物價の趨勢

新法幣の躍進目覺し

農民道昂揚を討議

協力會議第四委員會で

自作農、積極的創設

井野農相今後の措置言明

特約運賃全廢止

船舶運營會で明一日から實施

百貨店、寺院等を

勞務者住宅に轉用

總動員法の發動言明

海運能率化を期す

遞信部で港灣荷役打合會

木炭統制規則近く公布

全島農林課長會議終る

援護の光に輝く更生

病癒え職場に敢闘

〝不屈不撓〟の突擊精神

來期赤糖增産か

滿華蒙需要增を狙つて

亞麻栽培積極化

新竹州で裏作に千甲步

産組貯金激增す

七月末の業務狀況

寢込を襲ひ〝毆込み〟

倉庫には新銳兵器、各種の食糧山積

眞に一億の總常會

協力會議傍聽感想談

昭和

十二年といふのも、これ等みんなタイパーボートが飛び始めた年で、日本の人はほんとうにいいおもちゃをもつたと思ひました。

洋裁が……自宅で習へる

寝込を襲ひ毆込み
倉庫には新鋭兵器、各種の食糧山積
ドボ島奇襲上陸掃蕩記

【東部ニューギニア方面にて二十九日申村（発）】東部ニューギニアの南方に散在するアル諸島ドボ島スンダ列島から飛んでオーモール諸島とテンボン島、バンダ諸島とを結ぶ線の中央に位置するこの島の諸部隊に対する連合軍の空襲は日増しに熾烈を加へてゐるが、ドボ島の敵航空基地に対しては特にこれまでに数回に亘つて徹底的な爆撃が加へられ、ここに敵は最後の拠点として頑強な抵抗を試みようとしてゐたが、これも遂に我が精鋭部隊の前に潰滅されて去る七月二十一日ここに敵兵力の掃蕩を完了した

○○航空隊の指揮するところ敵前上陸は三十日夜半を期して開始されつつあつた、山のないドボ島の地形は三十米以上の樹木の繁茂の如く中央にそそり立つてゐる、敵前上陸の目的は敵基地に対しこれを占領するに最適の地点であるからで、敵航空機の基地に突入してゆく、我を迎へんと待ち構へる敵の陸上兵力との「決つかひ」の第一ラウンドは、敵のトチ、ケイ高地の陸上戦闘の火蓋を切つて落された、敵はこの地点に我が陸軍部隊の上陸を予期してトーアル、ランゲル、ニルの陸軍のサラヤ、ラムレなどの諸飛行場から増援部隊を送り込んでゐたが、これも我が陸軍部隊の敵前上陸と同時に我が航空部隊の猛烈な爆撃と銃撃によつて徹底的に破壊されてゐた、これが開始から僅か数時間で敵航空兵力は全く無力化されてしまつた

彈丸

の入つてゐないエルグマン銃を抱へて来る者、ズボンを穿きながら駆け出す者、裸足で走り出すものもある、敵兵は全く狼狽し切つてゐる、その様子は手に取るやうに分る、敵は十分な抵抗もせず我が軍の上陸を許してゐる、これは敵が我が軍の上陸を予期してゐなかつたからではない、敵は我が軍の上陸を予期してゐたが、我が軍の上陸が余りにも速かつたからである、敵兵は我が軍の上陸と同時に我が軍の猛烈な爆撃と銃撃によつて戦意を喪失してゐるの

現地娘の熱誠結實

興亞防共に海南島青年團奮起す

海南島に奏づ日華親善譜

【海南島特電十日發】大東亞戰爭は愈々重大段階に入り、海南島は南方作戰の中樞として益々その重要性を加へつゝあるが、茲に海南島に於ける興亞防共に關する最近の二つの話題を紹介しよう

その一　文化政策の强い味方

今度新たに海南島の警備を擔當することになつた○○部隊は、上陸以來、島民に對し文化政策の强い味方として、島民の中に深く入り込んで、島民の生活を安定させ、島民の信頼を得ることに努めてゐるが、その一つとして、島民の子弟の教育に關し、島民の要望を容れ、島民の中から教師を採用して、島民の子弟に對する教育を行ふことゝなつた。そこで○○部隊では、島民の中から教師として適當な人物を物色してゐたが、たまたま島民の中に、日本の東京に留學して、日本語を完全に修得し、日本の事情にも精通してゐる青年があることを聞き、その青年を招いて、島民の子弟に對する教育を行ふことを懇請したところ、その青年は、島民の子弟に對する教育は、日本人の手によつて行はるべきであるとの信念から、その懇請を斷つてゐるが、○○部隊では、その青年の信念に感激し、その青年の意向を尊重して